

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年1月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2270600451		
法人名	有限会社 エルダーハウス		
事業所名	グループホーム千草		
所在地 (電話番号)	三島市徳倉3-6-16 (電話) 055-986-6022		

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成19年10月2日		

【情報提供票より】(平成19年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計6人	
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.45人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造鉄筋コンクリート陸屋根造り 2階建ての1階～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	25,000～45,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000円)	有りの場合 償却の有無	無(一括償却)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,800円	

(4) 利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	6 名	男性	1 名	女性	5 名	
要介護1		1 名	要介護2		1 名	
要介護3		0 名	要介護4		3 名	
要介護5		1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	83.3 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	芹沢病院	広小路クリニック	田村歯科医院
---------	------	----------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者自身が住んでいた自宅を改築し、開設して4年目を迎える。6人の利用定員なので、利用者と職員が家族のように生活している雰囲気が漂うホームである。利用者本位のサービス提供に向け、研鑽を深めるとともに、これまでの取り組みを定期的に振り返り、更なる取り組みに繋げようと努力している。利用者一人ひとりの思いや意向を踏まえ、充実した生活を支援するために、職員は丸となって試行錯誤を重ねている。利用者と家族との絆を大切に考え、家族への連絡や交流も盛んに行われている。また、開設以降、地域に根付くホーム運営を目指して、地域行事への参加や住民との交流を積極的に行ってきたので、地域にも認識され、協力も得られる関係となっている。利用者の生活の質の向上を常に考えて取り組んでいるので、今後にも期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善が必要な事項については、管理者及び職員が確認し、検討しながら計画的な改善に努めてきている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全ての職員で自己評価をしたことで、個々人の問題や課題を共有でき、これからの取り組みに向けた方向性も明らかにしている。定期的に(自己)評価に取り組む必要性を理解し、積極的に取り組んだ。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に一度、定期的に開催する運営推進会議は、ホームの運営、サービス提供状況の報告や利用者の生活の質を向上させるための意見を伺う機会として有効に位置付けられている。家族会には、ホーム協力医(かかりつけ医)も参加し、健康に生活するための助言等を得る場にもなっている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族との連絡を密に行い、利用者との絆を大切に考えるとともに、ホーム運営自体にも家族が関わられるように配慮している。家族の信頼も深く、利用者と家族、ホーム(職員)が一体となった家庭的な運営がされている。定期的な連絡や報告を行い、改善すべき事項等を共有し、それを速やかに運営に反映させている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設当時から地域に根付いたホーム運営に取り組んでおり、近隣住民とは、日常生活の中で交流を深めている。自治会にも加入し、自治会活動に参加する他、災害時への対応として、近隣住民や地域消防団からの協力も得られるような関係も確立している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一つ屋根の下で一緒に暮らしませんか。」を理念に、既存の住宅を改築し、家族的な雰囲気の中で利用者が明るく、楽しく、安らぎのある生活を送ることを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、職員が利用者に寄り添いともに暮らせるように配慮している。理念は玄関、居間に掲げ、常に職員間で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に根付くホームとなるように地域及び地域住民との交流を大切に考えている。地域の一員として、自治会にも加入し、利用者の散歩も兼ねて防犯パトロール会員としての活動も継続して地域住民と行う等、交流も自然に深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を十分理解し、全ての職員が自己評価を行い、それを持ちより話し合う機会を設けた。職員一人ひとりの考えや課題を共有し、更なる取り組みに繋げようと考えて取り組んだ。評価を行う過程を大切に考えている。	○	評価を行う過程を大切に考え、建設的且つ有意義に自己評価を行っている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度定期的開催し、ホーム運営状況やサービス提供状況を報告するとともに、サービス向上に向けて意見を得るようにしている。構成メンバーも利用者及び家族、近隣住民や関係機関職員等の参画を得て、利用者の生活の質の向上に繋げるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	些細な疑問や問題でも市に赴いて相談する等、市との連絡を密にしている。利用者へのサービス向上に向けて、常に市も巻き込んで伝えるようにしている。	○	保険者である市(職員)に働きかけを行い、利用者へのサービス向上及び生活の質の向上に繋げられるように定期的なケース検討や事例研修等の場を設けることにも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族の訪問も多く、訪問の際には利用者の生活の様子等を伝えている。また、月に一度、利用者の暮らしぶり等を写真を添えて伝えるようにしている。必要に応じた電話連絡も行う等、必要に応じて連絡を取り合うように留意している。家族が定期的集まる機会も設けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に何でも言えるような関係づくりを大切に考え、運営やサービス提供方法への意見、要望、不満、苦情には些細な事柄でも把握しようとしている。把握した意見等は、職員間で共有するとともに、運営に反映させるように取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や移動による利用者への弊害を良く理解し、それを防ぐように努力している。職員間での情報の共有に努め、職員の不平や不満を解消するように話し合いの場を多く設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員の職場内研修(OJT)の充実を図るとともに、外部研修の受講も必要に応じて行っている。サービスの質の向上を図るためには、職員の質を向上させる必要があると考え、内外の研修充実を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のホーム事業者研修会を立ち上げ、定期的な情報交換や勉強会を開催している。ホーム間の情報交換や勉強会を定期的開催し、利用者本位のサービス向上に向けて取り組んでいる。また、日常業務の中でも連携を図るように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、利用申込者及び家族に体験利用を促し、利用者と職員と一緒に話したり、食事を一緒に摂る等している。数日(3～5日)間の体験利用期間を設けて、利用決定に繋げるようにしている。利用者と職員が馴染みの関係となり、利用者の様子を確認しながら、少しずつサービス提供を行うように留意している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が充実した生活を送ることを職員は認識しながらも、一緒に過ごすように心掛け、共に喜び合える関係づくりとなっている。利用者が生きがいをもって生活できるように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに向き合い、希望や意向の把握に努めている。日常生活の中での言動や仕草にも留意し、家族の訪問時等にも聞き取るようにしている。得た事柄は記録し、職員間で共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及び家族の意向を踏まえ、具体的な介護支援計画を策定している。また、策定にあたっては、職員の意見及び関係する医師や看護師等の意見も含め、目標を定めた計画策定としている。策定した計画は、利用者及び家族に説明を行い、その内容は職員間で確認し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の期間に合わせて定期的に評価、効果測定し、具体的な見直しを行っている。また、必要に応じて随時見直しを行っている。利用者や家族の意向も反映するように留意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの機能を活かし、利用者や家族の要望や希望をできる限り実現できるように配慮し、柔軟で弾力的な対応をするようにしている。利用者の充実した生活に向けて、どのように対応するかを常に検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診支援を行うとともに、その関係を築くようにしている。また、ホーム協力医とも連携を図り、利用者の健康状況を把握し、必要に応じて適切な受診、医療が受けられるように取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応は、利用者及び家族、かかりつけ医等と話し合いを持ちながら、利用者が望む対応を行っていかうと検討を重ねている。	○	ターミナルケアに対する思いは、利用者及び家族によりそれぞれ異なり、難しい問題も多いと考えられるが、今後も利用者や家族の思いに基づいた対応が行われるように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格や尊厳を大切に考え、プライバシーに配慮した支援や言葉掛けに留意している。その取り組みについても定期的に確認し合っている。個人情報の取扱いについても認識を深めて、適切に扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、職員が寄り添いながら自らの意思で充実した生活が送れるように配慮している。利用者本位で生活が送れるように、職員は見守りながらさりげない支援を行うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は利用者の希望や好みを取り入れ、楽しい食事となるように配慮している。開設当時は、職員も一緒に食事を摂ってきたが、食事時の十分な留意(誤嚥や食べることを忘れる等)が必要となり、現在は介助中心となっている。	○	利用者の状況により止むを得ないことであり、今後も時々 の状況を踏まえて食事時間が楽しくなるように定期的に検 討して欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望によりいつでも入浴できるような配慮がされている。利用者にとって入浴が楽しめる、安らぐ一時となるように考えて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのこれまでの生活歴や趣味、嗜好を踏まえて、その人にとって張り合いのある生活が継続できるように支援している。充実した生活が継続して送れるように考え、新たな楽しみごとや出来ることを見い出すように利用者に接している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の心身の機能の維持と向上を目指して、積極的な外出支援を行っている。近隣の山(丘)の散策等が日常的に行われる他、家族の協力も得ながら外出機会を多く設けるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠する利用者への弊害についてよく理解しており、施錠は一切行っていない。利用者の自由な行動を見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難(防災)訓練を定期的実施している。あらゆる場面を想定しながら、近隣住民の協力得たり、地域消防団にも協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況を把握しながら、必要な栄養摂取や水分補給を確認しながら支援している。食事メニューも利用者の好みに応じながらも、バランスに配慮し、必要な水分が得られるように留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改築して開設しているホームであるため、より家庭らしい雰囲気が漂う共有空間となっている。施設のようにスペースは確保できないが、明るさや換気にも留意し、季節の植物を配置する等、家庭らしい居心地良い空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品を持ち込み、一人ひとり個性ある居室となっている。写真や手作品を居室内に装飾し、居心地良く過ごせるように支援している。		